

---

# 星炎の魂 ~ The world which cannot be finished forever ~

翡翠

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スマブラ小説 星炎の魂 〈The world which cannot be finished forever〉

### 【Nコード】

N9157Y

### 【作者名】

翡翠

### 【あらすじ】

ニンテンドーワールド。そこは創造神によって生み出された一つの世界。あまりにも広大すぎて、自分が存在する場所が世界だとさえ思ってしまうような　　？世界？。そんな世界に危機が迫っていた。それはこの？世界？を無にする、終末への歯車だった

全ては100年に一度、キノコ王国に訪れるほつき星からの恵みに感謝する祭り『星くず祭り』から始まる。これは、スマッシュブラザーズ達の、世界をかけた冒険と戦いの物語。

## 世界説明（前書き）

世界の形はもう一つのスマブラ小説と同じです。  
ただ変わったのは、フィギュア化という概念がないことです。

## 世界説明

### 世界説明

#### ニンテンドーワールド

巨大な本惑星を中心とした、宇宙すべてをまとめた世界の名前。つまり、無限に広がる宇宙のすべてがニンテンドーワールドである。本惑星の周りにある、一つ一つの惑星も例外ではなく、ニンテンドーワールドの一つである。

#### 本惑星説明

大きさは現実世界の天王星より少し大きいくらい。かなり巨大な惑星であることから、場所によっての気候や気温は全然違う。無数の大陸があり、それぞれの文化や歴史を持って、バラバラに暮らしている。人もいればポケモンのような魔獣、魔族や養成など、多種多彩の生物が存在している。それぞれの大陸の関係は、つい昔までは大陸同士の関係はほとんど皆無だったが、ここ最近では交流を持つようになる。貿易なども行われている。

#### 本惑星にある大きな大陸

##### ・ポケモンワールド

最も巨大な大陸。一つの惑星になるほどの面積を誇っていることから。ポケモンワールドと呼ばれるようになった。名前の通りポケモンたちが主に生息する大地。文化は世界の中では進んでいるほうで、激しい争いもここ最近ではおこっていない。複数の地方がある。カントー・ジョウトなどそして、全世界で一番神と呼ばれし存在が多いことから、一番最初にできた大陸は、ここではないかということが推測される。

#### ・ハイラル大陸

文化などはもつとも古代的であり、本惑星の中でほとんど機械化が進んでいない。三柱の女神によって生まれたとされている大地。都市ハイラルを中心として、農業や酪農が多く行われている。大陸にいる人間の半分以上は農家出身。開拓されていない土地が多く、まだ人間たちが手を触れていない場所も数多く存在している。魔法が存在している大陸でもある。

#### ・アカネイア大陸・テリウス大陸

わずかに接続している二つの大陸。ここもハイラルと同じくあまり機械化などは行われていない。国のほとんどが同盟国として建立されている。争いはおそらく世界で一番多い。クーデターや戦争などが絶えない。そのぶん国どおしの結束強まっていったりする。のちにその国々が集まって一つになり、大国が生まれることもある。

#### ・マリオワールド

四つの大陸の中では一番小さい大陸。大陸名は英雄マリオからとられている。つまり最近まではちゃんとした名前はなかったということになる。機械化は進んでいる場所と進んでいない場所がある。巨大な都市があったり、ビルばかりの都会、巨大なジャングルに謎のマンション（笑）があったり……。本惑星の中では一番環境差の激しいところ。

ちなみに、マリオやルイージ、ピーチはキノコ王国に住んでいる（詳しく言えばマリオ達はキノコ王国の下町キノコタウンに住んでいる）。ドンキーやデイドーはコンゴジャングルに住んでいる。ヨッシーの住むヨッシーアイランドは大陸から少し離れた場所に孤島として存在している。

巨大な大陸は主にこの四つである。

本惑星自体はそこまで高度の化学は進んではいない。

他にも大陸が無数にあるが、数が多すぎるのでここではあげない。

### 宇宙に存在する星々達

宇宙は広大であることから、太陽が数個あったりしてもおかしくない。

本惑星より大きなものはなく、一つ一つの星は割と小さい。しかし、数が多いことから様々な生物たちが暮らしている。全てはともじらないが説明できないので、一部だけを紹介。

## ・ポップスター

カービィたちが住む平和な星。ププランドが首都(?)。自然が多いので機械などはほとんどない。

まわりにたくさん惑星がある。

リップルスターやメックアイ、フロリアやウルルンスターなど・・・数えきれない。

貿易は多く行っていることから、星々との交流は深い。

## ・ライラット系

ニンテンドーワールドには数えきれないほどの太陽系があるが、これはそのなかの一つ。

スターフォックスの主な拠点。

機械文明が非常に発達している。

そのせいで完全に自立してしまった星も少なくない。

他にも、宇宙を旅する船があったり  
と、いまだ解明できていないことが多い。

ここで説明していないことも多数あるが

ニンテンドーワールドはこのような世界である。

ストーリー展開によって、新たに更新する設定があるかもしれない



## 序章 創造神

むかしむかし、まだ？世界？が世界という存在を持っていなかった頃の物語

？世界？が生まれる前のこの世界は、ただ空虚で、生命も物質も概念も理も何一つありませんでした。

いわば、何もない無の世界でした。

その世界は、そのまま何も変わることもなく、永遠に不変に終わりも始まりもなく、ただ？ある？だけのものでした。

そうなっていくはずでした

ある時、唐突に二つの白き手が降臨しました。

巨大な右手と、左手。

二つは、一つで、対になっていました。

？マスターハンド？と、？クレイジーハンド？

のちに、創造神と語りつがれるものでした。

ふたりは強大な力で、？世界？という存在を生み出そうとしました。

まず最初に宇宙をつくり、惑星などの星々を作り出しました。

そのあとに時間や空間などの概念、大地の力、自然の力……ふたりは、たったふたりで？世界？を構築していきました。

概念や理を設定し、ふたりは最後に生命を作りました。

マスターハンドが心を、クレイジーハンドが肉体を、作り上げました。

そして、概念や理、自然を守るために、いくつもの神々と呼ばれし者を作り、それぞれを管理者としてまとめました。

最後に、ふたりは？世界？を支える存在として、永遠に？世界？を守り続ける存在になったのです。

だけど、ふたりは預期していませんでした。

自分たちが作り出した生命たちが、お互いに競い合い、争うようになったことを……。

戦を繰り返し、無駄な血を流し、尊い命をいくつも失っていく……。

創造神達は、理想郷を作ったつもりでした。

誰もが平等に、平和に暮らせる社会を作り上げたつもりだったので  
すが、それはかなえられなかったのです。

生命たちの争いで、神々は傷つき、しまいには神々が生命を殺して  
しまうことも起こりました。

創造神達は絶望しました。

このままでは？世界？はばらばらになり、崩滅してしまうだろうと。

世界中で長い長い戦いが起こっている、このままでは大勢の命が失  
われる、と創造神は焦りました。

小さな命でも、創造神たちにとってはかけがえのない存在でした。

だから、マスターハンドとクレイジーハンドは争いを止めるべく、  
神の世界から降臨しました。

しかし 創造神の声さえ、争いを続ける生命たちにはとど  
かなかったのです。

終われない戦い。

戦えば戦うほど、止められなくなる。

仲間が死ぬ。

悲しみと憎しみが生まれる。

それが比例して、連鎖する。

そうなるともう、神の声だって届かない……。

？世界？にはまがましい絶望が、溢れかえってしました。

変わり果てた？世界？に、創造神は何も言えなくなってしまうした。

ただ創造神は、誰もお互いを愛せるような世界を作ったつもりだったのです。

丹精を込めて作った、愛しい世界の変わりよう。

それはもう、？世界？ではなく地獄でした。

どうしようもなくなった？世界？を目の当たりにしたふたりは、何としてでも止めようと思いました。

クレイジーハンドは言いました。

「この世界はもう駄目だ。いったん世界をリセットして、また新たな世界を作ろう。これ以上命が消えるのは耐えられない。誰も苦しまないように世界を終わらせて、今度は誰も苦しめない、楽園を作

り上げよう」

そう言いました。

しかし、マスターハンドは反対しました。

世界をリセットする……それはすなわち、この世界の強制終了  
シャットダウン  
を意味するからです。

今ある命は無に帰してしまうことを、マスターハンドは断固として許しませんでした。

？世界？の結末に、神は手を出せないけれど……生命たちがきつと未来を変えてくれる……と

マスターハンドは信じていました。

信じて信じて、裏切られました。

？世界？は荒廃し、結局……滅びてしまいました。

わずかに残った生命は、生きること絶望し、次々にその命を絶つてしまいました。

何がいけなかった。

いったい何がいけなかったのだ。

創造神もまた、絶望しました。

もう取り返しのつかなくなった？世界？は、  
もう強制終了シャットダウンするほか  
はなかったのです。

創造神は、幸せを願って生み出した？世界？を、シャットダウン強制終了しました

ふたりはまたゼロに戻った世界を、また作り直しました。

もう二度と同じ失敗をしないために

ふたりは、『幸せな世界』という設定を変更しました。

『決して壊れない世界』という設定に、世界を作り出しました。

自分の選択は、より前の？世界？の生命たちを苦しませてしまった。

もつと早く終わりにしておけば、苦しみは減ったはずだったのに。

深い後悔に囚われたマスターハンドは、二度とあんな争いを起こさないために、一つの宝玉を作りました。

新たな世界に、絶望を生み出さないために……そんな狂おしい願いを込めた宝玉を……。

宝玉の名は

『スマッシュボール（砕けぬ心）』

マスターハンドは、己の力を半分以上、この宝玉に分け与えました。

彩<sup>あや</sup>なる宝玉は、炎のように輝き、煌めきました。

それはまるで

降り注ぐ星くず（スターピース）のよう。

？世界？の安定を願った、マスターハンドの唯一の贈り物でした。



これは、はるかむかしの

始まりの物語。

## 第一話 始まりの夢

そこは、一面真っ白な世界だった。

上も下も右も左、そこを見回しても白白白の不思議な場所だった。

あまりにも白の純度が高いので、長時間ここにいたら目がおかしくなってしまうだろう。

気味が悪くなるほどの無音で、静かすぎてキーンという高い音が耳元で聞こえる。

冷たい空気を肌に、鼻腔に感じる。

だからと言って寒くはなく、暑くもない。

むしろちょうどいい適温だ。

箱の中のような空間は、鏡の中のように、万華鏡の中に閉じ込められてしまったかのような錯覚に陥る。

そこに、『自分』は立っていた。

周りには誰一人としておらず、ただ『自分』が直立して立っているだけだ。

いつからここにいるのかもわからない。

気が付いたらここにいた。

あまりにも現実味のない、この場所に。

恐ろしいくらいに何も無い、ここに。

でも『自分』は恐怖を感じてはいなかった。

意識に霧がかかっているかのように、非常にぼんやりとしている。

だけど、視界ははっきりしている。

『自分』は歩いていた。

なぜ歩いているのか、わからない。

体からは歩行の指令を出していない。

体が勝手に動いている。

『自分』の意思と関係なく。

白い空間を進んでいく。

どれくらい歩いたのかはわからない。

進んでいるはずなのに、その場で足が動いているだけだった。

やがて、白い空間に、一つの黒い点が現れた。

それはまるで白い紙にインクが一滴垂れたようだった。

染みは見る見るうちに広がり、先ほどまで真っ白だった世界が、急に場面を変えた。

白い空間は終わり、今度は真っ暗な空間になった。

闇よりも暗い、漆黒の世界に。

変わったのはそれだけではなく、『自分』以外にも『誰か』がそこにいた。

『誰か』は、光り輝く宝玉を前に立っていた。

その宝玉は美しかった。

この世のありとあらゆる色を合わせたかのような、幻想的な色をしていた。

真っ暗な空間で、宝玉だけがはつきりととらえることができた。

『誰か』は宝玉を見つめる目を、『自分』へと動かした。

そして、何かに待ちきれなかったかのような笑顔を、『自分』へと向けた。

『これより、ゲーム・スタートだ。スマッシュブラザーズ』

『誰か』はそう言った。

その直後

パリン  
と

宝玉が澄んだ音とともに割れた。

硝子玉のように存在しないはずの光を反射させて、破片を飛び散らせた。

更に『自分』の足元に巨大な穴が開いた。

ブラックホールを連想させる穴は、膨れ上がるように大きくなる。

『自分』は抵抗さえできず、なすすべもなくまっさかさまに落ちていく。

おちていく……

・  
・

+

・  
・

AM 8 : 30

キノコ王国の丘の上、マリオとルイージの家。

ルイージ「おゝい兄さん。兄さんもう八時半だよ。起きてよゝ」

マリオ「・・・・・・・・・・うーん・・・・・・・・」

ルイージ「兄さんゝ！今日はスマッシュブラザーズの皆がキノコ王国に来るんだよ！早く支度して皆を迎えに行かないと駄目だよゝ！」

マリオ「・・・・・・・・・・」

ルイージ「明日は100年に一度の星くず祭りなんだよゝ！城に行つて手伝いにもいかないとゝ！」

マリオ「わ・・・・・・・・わかった・・・・・・・・わかったからこれ以上ベツトを揺らすのはやめてくれ・・・・・・・・」



ルイージ「起きない兄さんが悪いんだよ！もうつ」

マリオ「うつつ……揺さぶられたせいか頭が痛い……」

ルイージ「そんなに強くは揺すつてないよ。……兄さんって低血圧だっけ？」

マリオ「たぶん違うと思う……それにしても今朝はあまりよくない目覚めだったな……」

ルイージ「……ぼくが起こすんじゃないくてピーチ姫に起こしてもらいたかったの？」

マリオ「いや、断じてそういうことではない（……それも一理ある）」

ルイージ「まあどっちにしたって早くしたくしなきゃね。朝ごはんもう出来てるからね」

マリオ「お、それはありがたいな。いつもはおれのほうが起きるの早いのにな」

ルイージ「今日が楽しみで早く起きちゃったんだ。それにしたって今日の兄さんはすごい寝坊だったね」

マリオ「あれ？おかしいな……目覚ましかけたはずだったのに……」

ルイージ「電池切れてたんじゃない？……じゃあぼくは先に下行

ってるからね」

マリオを起こし終えたルイージは、軽快なリズムで階段を下りて行った。

残されたマリオは枕元に置いてある目覚まし時計を手を取った。

マリオ「……？電池はこの間取り替えたばかりだったんだけどな……」

目覚まし時計は、十二時ピッタリに止まっていた。

マリオ「まあそういうときもあるのかもな」

目覚まし時計を置いて、マリオはベットから出て、着替えようとタンスに向かう。

マリオ「……………  
変な夢見たなあ」

・

+

・

マリオがダイニングルームについたときは、もう朝ごはんがテーブルに並べられていた。

メニューはパンに目玉焼きにキノコスープ・・・（以下略）。

ルイージ「ちょっとさめちゃったけど味は変わってないと思うよ」

マリオ「悪いな」

ルイージ「ううん、大丈夫。早く食べて出発しないとね」

兄弟は席に着き、「いただきます」と手を合わせる。

マリオ「星くず祭り・・・俺たちの代で見ることができてよかったな」

ルイージ「本当だよね！100年前には写真の技術がなかったから、今まで絵でしか見たことがなかったから楽しみだよ！」

マリオ「空から星くず（スターピース）が降ってくるっていったい  
どういう仕組みなんだろうな」

ルイージ「ほうき星の恵み……って言われているけど、実際のところ  
はなんなんだろうね。星くず（スターピース）が集まってパワ  
ースターが作られるから……一応は動力源だよな」

マリオ「ふむ……興味深いな」

ルイージ「調べてみるつもり？」

マリオ「そうしたいが100年に一度、しかも一夜の出来事だから  
なあ……ちょっと厳しいかもな」

ルイージ「写真はいつぱいとおかないとね」

マリオ「……あいつらも楽しみにしてるよな」

ルイージ「うん！皆お祭りを楽しみにしてるよ！それに……」

マリオ「それに？」

ルイージ「ご馳走出放題プラスまた皆でバトルできるからって」

マリオ「祭り会場でバトルすんのかよ……しかも食い放題ってピ  
ーチ城が潰れるぞ」（汗）

ルイージ「あはは……やりかねないよねホント」（汗）

マリオ「は……」

なあ、ルイージ？」

ルイージ「何？」

マリオ「今朝おれ、変な夢見たんだ」

ルイージ「えっ！」

マリオの発言に、ルイージも驚きの声を上げた。

ルイージ「兄さんも見たの？」

マリオ「え？じゃあお前も見たのか？」

ルイージ「うん．．．なんか気が付いたら白い空間にいて．．．」

マリオ「急に黒い空間に変わった？」

ルイージ「うん！」

マリオ「．．．おれ達、同じ夢を見たのかもな」

ルイージ「だね．．．でも、あんまし覚えてなくて．．．ぼんやりとしか。何か光り輝くものがあつて．．．」

マリオ「うん．．．おれも曖昧にしか覚えてない。なんせ現実味がなくて．．．」

ルイージ「起きた時になんか体が重くて．．．でも、祭りのこと

考えてたら吹っ飛んじやったけど」

マリオ「・・・なんだったんだろうないったい」

ルイージ「不思議だね」

マリオ「こういうときもあるもんなのかな」

ルイージ「どうだろうね・・・」

マリオ「・・・まあとりあえずその話は置いて、出発しないとな」

ルイージ「そうだね」

「ごちそうさま」と食事を終えて、二人は軽く片づけをした。

数分後

マリオ「さて！行くか」

ルイージ「皆はキノコ城の傍にそれぞれくるから迎えに行かないとね」

マリオ「ああ！」

二人は扉を開けて、外に踏み出していった。

・  
・

十

・  
・

「????1 準備はいいか？」

「????2 はい、もちろんです」

「????1 警戒実行予定まであと三十三時間だ！」

「????2 わかっています」

「????1 この?世界?に終末を与えるのだ！」

「? ? ? 2」  
くくくくく  
・ ・ ・  
・ ・ ・  
承知いたしました」



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9157y/>

---

スマブラ小説 星炎の魂 ~ The world which cannot be finished forever ~

2011年11月27日16時52分発行